

実効性ある開催方法を検討中である。

青少年健全育成について

質問 脱法ハーブ等の認識と今後の対応はどうか。

答弁 簡単に手に入りやすく、青少年には有害であると認識している。さまざまな機会を捉えて啓発していきたい。

質問 学校での薬物教育はどうか。

答弁 学習指導要領に則し、法律で小中学校では薬物乱用が禁止され、その害や薬物依存の悪影響などを学習している。

若者の雇用対策について

質問 若者の雇用のミスマッチ解消はどうか。

答弁 地域に残るためには働く場の確保が必要であり、人材の確保、定着、育成の観点で会議を開催し、検討した。公労、市が当面の課題として共通認識が必要である。

孤立死の防止対策について

質問 高齢者の一人暮らし世帯の見守りサービスをさらに拡充するため、今後の課題と取り組みはどうか。

答弁 関係する社会主体が横の連携を取って、日々の活動を積み重ね

ていくことに尽きる。見守り事業は、対象地域の拡大に向け動き出している。

消防バイク導入について

質問 消防バイク導入に向け検討しているか。

答弁 全国では58消防本部、183台導入されている。諸課題、他市の状況を踏まえ検討したい。



他市の消防バイク

四日町交流センターの存続について

質問 (仮称) 第二中学校区統合小学校の開校後、高齢者の交流の場である四日町交流センターの存続はどうか。

答弁 高齢者の交流、生きがいづくりの場として地域の皆様と十分相談しながら検討したい。

八十里越道路を活用した文化交流について

質問 工事用道路と仮橋を通じて三条市と福島県只見町がつながった。全面開通までの活用はどうか。互いの民話や歴史で文化交流を行うことはどうか。

答弁 関係する市、町、商工会、観光協会、県と国からなる八十里越道路暫定的活用検討懇談会を立ち上げた。文化面、経済面など幅広い交流を始めたい。



国道289号八十里越工事現場

防災教育について

質問 女性には教育、子育て、健康づくり、高齢者支援に直接関わる。地域防災の担い手として女性防災リーダーを育成してはどうか。防災教育を充実させてはどうか。

国道403号、国道289号バイパスの早期着工・完成について

質問 都市計画道路である国道289号バイパス大島東大崎線、国道403号バイパス三条北バイパスは、自動車交通需要がピークである向こう40年間で必要であり、その役目を果たすものであると考えるが、早期着手と早期完成を目指すべきではないか。

答弁 新市建設計画登載事業に登載されている事業は着実に進捗しているし、国の直轄事業である国道8号拡幅、国道289号八十里越区間については相応の成果が出ている。しかしながら県の所管する国道289号バイパス、国道403号バイパスは、国と県の財政的な体力の差から事業進捗では不利な状況であると考えている。

今後も国道403号バイパスについては、新規着手区間に関し国の権限代行への運動と早期完成を国、県それぞれに要望していき、国道289号バイパスについても同じであると考えている。

いじめ・不登校児童生徒への対応について

質問 いじめなど問題が生じた際の教育委員会の対応はどうか。

答弁 学校と連携し対応策を検討している。

答弁 より多くの方が防災の知識をもつリーダーとなるよう自主防災リーダー研修会、災害対応マニュアル説明会を実施してきた。さらなる女性の参加を働きかけたい。悲惨な教訓を学んだ水害を風化させることなく、防災教育に力を入れたい。

河川の安全管理について

質問 8月23日五十嵐川の渡瀬橋上流で水難死亡事故があった。安全対策はどのようにしているのか。学校ではどのように注意喚起をしているのか。危険箇所には危険を喚起する看板設置の拡充をすべきではないか。

答弁 河川の利用については、自由利用の原則が掲げられている。県で監視をしているが利用者自身による安全対策が重要である。また、着衣泳を多くの学校で行っている。この度の事故を受け、改めて注意喚起の指導を学校に通知した。三条市青少年育成市民会議で注意喚起看板を設置する計画がある。



河川敷の注意喚起の看板

質問 いじめやトラブルの要因になるインターネットの危うさなど、リテラシー教育にはどのような取り組みがあるのか。

答弁 小学校は社会科、中学校は技術家庭科で教え、関係機関から講師を招き特別授業をしている学校もある。

質問 中学3年生の進路指導は、不登校生を含めて行われているのか。

答弁 市内共通のリーフレットを作成し個別に応じた進路指導に努めている。

質問 適応支援教室を栄、下田地区でも行い、また夜間の開設もしているか。

答弁 要望が出される中で検討したい。

柏崎刈羽原発再稼働について

質問 来春に柏崎刈羽原発の再稼働が計画されているが、市長の見解はどうか。

答弁 安全協定を結んでいない市長としての立場を聞くのはお門違いだ。

防災対策の見直しについて

質問 地域の防災リーダー養成のために長期スパンのプログラムで、防災まちづくり学校を市民対象に開催してほしいか。

小中一貫教育における職員体制について

質問 子どもに接する職員の体制をどのように考えているのか。

答弁 スクールカウンセラーや加配教員など県に可能な限り配当を要望する。市としても講師の配置の継続を努力する。

除雪計画の見直しについて

質問 降雪時の通学路の安全対策において、除雪計画に子どもを安全に入れているか。

答弁 除雪計画の目的のひとつである市民生活の安定の中に包括されていると認識だが、より具体的な目的を明らかに検討する。

中心市街地活性化について

質問 一ノ木戸商店街で10月着工、12月開設予定の中心市街地活性化拠点施設はどのようなものなのか。

答弁 将来的には、三条マルシェの企画の場、地域住民の活力を生かすための場としてまちづくり会社の拠点にしたい。まずはまちづくり相談窓口、休憩スペース、喫茶、空き店舗出店につながるチャレンジショップを整備する。収益で運営を賄っていただきたいが、当面は行政から助成を行っている。



中心市街地拠点施設が予定される一ノ木戸商店街

市と県における連携について

質問 県知事選後の県政への期待はどうか。

答弁 救命救急センター及び併設基幹病院の設置や五十嵐川水系の抜本的な河川改修は市が頭を下げている。県は率先すべき。救急医療体制については「まず市町村での議論の整理」となったが、この先は県の力強いリーダーシップに期待する。

産業振興では、新潟港の活用にも力を入れてほしい。観光振興では、県の取り組みを評価している。小中一貫教育に関心の高い教員の加配については、さらに協議の場を求め、特別支援教育指導員増員についてもしっかりと求めたい。